ミュンヘン日本人国際学校

ミュンヘンはドイツの南東部にあるバイエルン州の州都です。BMW や SIEMENS などの大企業の本社があり、ドイツの中でも強力な経済力を持つ都市であると同時に、ドイツ最大級の大学や様々な研究機関をもつ科学や研究の先進地でもあります。街中に多くの公園が配置されている緑豊かな都市であるミュンヘンは、アルプス山脈の北縁から５０㎞ほど離れたオーバーバイエルンの高い平野に位置しており、市の東側には国際河川のドナウ川の支流であるイザール川が流れています。また、中世の古い街並みや美しい森と湖に囲まれており、地下水も豊富な美しい街です。

ミュンヘン日本人国際学校は教職員数 30 名、児童生徒数約２００名の小中併設の学校であり、ミュンヘンの日系企業の増加に伴い、児童生徒数も増加傾向にあります。バイエルン州より「インターナショナルスクール」の認可を受けているため、ドイツ語の授業が各学年あたり 3～5 時間確保されています。また、学校の基本理念の中で「日本と同等以上の教育を目指す」と謳っており、日本の教育課程に沿った学習が行われています。近年では「国際感覚の育成」に重点を置き、ドイツ語の授業や MT(ミュンヘンタイム)と呼ばれる国際理解教育を中心に様々な取り組みを行っています。毎年秋に行われている文化祭をでは、「ドイツ語学習発表会」という名で、全学年がオールドイツ語での発表も行っています。

また、地域に根ざした教材を扱うことが多い小学校３、４年生の社会科では、学校で作成した副読本にて学習していました。他の学年においても、様々な場所に見学に出掛け現地教材を十分に活用しながら、様々な体験学習を行っていました。また、現地校との交流活動(訪問と招待)を各１回ずつ行っていました。書道や昔遊び、食べ物などの日本の文化を紹介したり、一緒に体験したりしました。知っている限りのドイツ語とジェスチャーとを使って何とかコミュニケーションをとろうと一生懸命活動する姿は、異文化理解やコミュニケーション能力育成の絶好の機会となっていました。

ミュンヘン日本人国際学校では、身近な地域の素材を活用したり、児童が実際に体験させたりすることで、グローバルな視点や国際感覚を身につけさせ、児童生徒の国際性を豊かに育む教育活動を日々実践しています。

【ミュンヘン日本人国際学校の外観】

【運動会でのソーラン節の様子】

【クリスマスマルクト見学の様子】

平成２９年度派遣　森教諭　寄稿